

令和元年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(年度末)		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①21世紀型能力である基礎力・思考力・実践力の育成に向けて教育課程編成や組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②生徒の主体性の育成に向けて学校行事や生徒会活動等の充実を図る。</p>	<p>①組織的な授業改善を継続し、思考力・実践力を育む教育を展開するとともに、基礎学力を定着させる。さらに、新学習指導要領の先行実施や新校に向けた教育課程の検討を進める。</p> <p>②生徒会活動、各種委員会、生徒会行事を生徒主体で運営できるとともに自己肯定感を育成する。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善を図り、教科横断的な取組例を示し、授業実践に生かす。</p> <p>①新学習指導要領に関する研修会を実施し、新校の教育課程を両校連携し検討するとともに、現在の教育課程での展開を工夫する。</p> <p>①全学年において、生徒の取り組みやすい厚商チャレンジの実施方法を工夫し、基礎学力を定着させる。</p> <p>①課題研究発表会を定着させるとともに、実践的・体験的な学習活動を行い、ビジネスを通じて職業人として必要な資質・能力を育成する指導方法を研究する。</p> <p>②生徒会役員や各委員会委員長など生徒同士での打合せの時間を多くとらせ、生徒に主体的な運営をさせる。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目4における「3当てはまる」以上の回答が85%以上となったか。</p> <p>①新学習指導要領に関して全教員の理解が深まったか。また、新校を見据えた、教育課程の検討ができたか。</p> <p>①前年度の基礎力診断テストの結果と比較して基礎力が向上したといえるか。</p> <p>①ビジネスを通じ、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てることができたか。調査研究の指導方法が確立できたか。</p> <p>②生徒が主体的に行事や委員会活動を運営できたか。生徒同士で協議する場を昨年度以上設定することができたか。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目4の回答結果は、1回目は83.9%、2回目は75.2%であった。</p> <p>①教科ごとに教育課程説明会の報告が行われるとともに、新校を踏まえた教育課程の検討ができた。</p> <p>①基礎力診断テストの結果、昨年に比べ2学年は国語122人、3学年は英語123人の数値が上昇した。</p> <p>①課題研究において自ら課題を設定し調査・研究の中で自発的、創造的な学習態度が育った。15名の教科担当者が共通認識で指導できた。</p> <p>②生徒会生徒自ら打合せを毎週行い、傘の貸し出しやエコキャップの回収などに取り組んだ。</p>	<p>①話し合いや意見発表などの表現活動を充実させた授業づくりに取り組み、知識だけに偏らない総合的・実践的な能力の育成に努める。</p> <p>①引き続き新学習指導要領や新校も見据えた教育課程の検討を行う。令和2年度に系・コースなどの大枠を検討し、令和3年度に新教育課程を決定させる。</p> <p>①基礎力診断テスト及び認定テストを実施することで、基礎力向上の度合いを分析する。</p> <p>①課題研究発表会等のアウトプットの間を引き続き実施することで、生徒の学習意欲を一層高めていく。</p> <p>②生徒会役員の活動を各委員会に広げ、主体的な取り組みのきっかけとする。</p>	<p>①「基礎学力診断テストの結果は何か特別な取組があったのか。他学年や他教科の状況はどうであったか。相対的に基礎力が向上したのか示した方がよい。</p> <p>①課題研究発表会は内容も発表方法も充実していると感じた。取組を地域に広げていくとよい。</p> <p>②エコキャップ運動の目的について、環境問題の視点から廃プラスチック原料目的なら「マイボトル運動」4Rの中でも有効順位最下位が「リサイクル」である。CO2を排出してキャップ輸送するなら20円の寄付でよい。</p>	<p>①組織的な授業改善を継続し、思考力・実践力を育む教育を展開することが出来た。</p> <p>①厚商チャレンジを実施し、基礎学力の定着に一定の成果が見られたが、一部の生徒については課題が残った。</p> <p>①新学習指導要領の先行実施や新校に向けた教育課程の検討を進めることができた。</p> <p>①課題研究を通して「調べ、まとめ、伝える」情報活用能力が身に付いた。研究内容の深まりの弱い生徒もいた。</p> <p>②生徒の発案による活動が定着しつつある。自主的な運営を委員会活動や学校行事に広げていくよう検討することが課題である。</p>	<p>①googleフォームを活用した授業改善研修会を実施した。生徒が主体的に取り組めるよう、教材や活用方法の情報共有を行う。</p> <p>①より多くの生徒が基礎学力の定着を図るため、厚商チャレンジを継続するとともに、教科と連携した指導を行う。</p> <p>①新校準備の運営をより充実させ、新学習指導要領や新校を見据えた教育課程の検討を引き続き行っていく。</p> <p>①生徒が自主的に取り組めるよう、指導方法を組織的に確立するとともに、個々の困り感に寄り添った指導を継続していく。</p> <p>②エコキャップの回収は緑ヶ丘小学校との連携の活動であるが、本校独自での環境問題に視点を置く活動も生徒主体で検討を進める。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①豊かな人間性や社会性の育成に向けて、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。</p> <p>②個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>③部活動の活性化を通して、生徒の責任感や連帯感を育み学校生活の充実を図る。</p>	<p>①授業規律を身に付けさせるとともに、他者を思い遣る気持ちを育て、自らの生活を律することができるよう支援する。</p> <p>②支援が必要な生徒に対し、適時に適切な支援を行うとともに、情報共有や外部機関等との連携を深め、支援体制を整える。</p> <p>③部活動の加入率および継続率を上げるための方策を検討し実施するとともに、</p>	<p>①継続的、粘り強い指導を継続するとともに、教科担当とクラス担任や学年と連携し、指導する。</p> <p>②教科担当や部活動顧問、担任等からの情報を教育相談係を通して職員で共有する。教員側からの声掛けを行う。</p> <p>③従来の説明会や案内放送を工夫するとともに、新しい部活動PRの方法を検討し、年間を通して部活動に触れる機会を設ける。また、部長会、顧問会議</p>	<p>①携帯電話使用規定及びマナーについての指導件数が減ったか。授業規律を定着させることができたか。</p> <p>②情報を統合して職員が生徒理解をできたか。支援体制を充実させ機能的な支援をすることができたか。挨拶を含め、適切な声掛けができたか。</p> <p>③部活動加入率、継続率は上がったか。部活動報告会で、生徒が発表する部活動が昨年度より増えたか。</p>	<p>①指導件数は横ばい状態であるが、無断での動画撮影やLINEへの不適切なUPがあった。</p> <p>②生徒情報の共有を学年ごとには図れているが、授業外の活動で共有不足のため効果的な指導ができない場面があった。</p> <p>③部活動加入率は42%、継続率は78%となった。</p>	<p>①携帯電話を含め、ネット社会に対応する力がある。</p> <p>②個人情報の取り扱いに注意しつつ、講師等を含め共有を進められる方策を考える。</p> <p>③各部活動に対するバックアップ体制を整え、明確にする。</p>	<p>①SNSトラブルへの指導は課題が多く難しいが、地道に続けていく必要がある。</p> <p>③部活動加入率が40%、継続率が80%と概数ならば具体的な数値の把握をお願いしたい。明確な部活動のバックアップは、正確な現状分析が必要である。</p>	<p>①新入生に対し、外部講師を招き講演を行い、折に触れ指導したが、授業中を含め、モラルの向上は横ばいであった。</p> <p>②トラブルを抱えていることを共有できている生徒と、顕在化しないため情報共有ができなかった生徒がいた。</p> <p>③部活動活性化のために活動の紹介や報告を行う機会を増やした。</p>	<p>①新入生だけでなく、年齢に応じた指導を考える。</p> <p>②引き続き声掛けを教員側から行う。個人情報に注意しつつ、教員間で情報交換できる場の設定を模索する。</p> <p>③部活動への加入率だけでなく継続率もあげられる方策の検討を今後も進める。</p>

			異年齢の生徒同士で協力して目的や目標に向けて課題を解決する力を育てる。	等で部活動継続のための課題を検討し、解決の方策をとる。						
3	進路指導・支援	①社会的・職業的自立を促し、自らの進路実現のために努力する生徒を育成するための支援体制の充実を図る。	①発達段階に応じた進路指導を、さまざまな場面をとらえて行うことにより、進路実現に向け努力する高い意識を維持させる。 ②進路実現に向けた基礎学力向上の軸として厚商チャレンジを一層推進する。各種の対策指導を学校全体で取り組む。	①職業適性検査及び体験型ガイダンス、講話型ガイダンスを定期的実施し、進路意識を啓発する。掲示物や配布物をさらに見やすいものにし、素早い情報提供をする。 ②厚商チャレンジを軸とした取組を学校全体で行い、基礎学力の向上を図る。面接指導、小論文対策指導、公務員対策指導を継続的に実施する。	①ガイダンス後のアンケートから、進路意識の高まりや、回を重ねることにより進路希望が具体的なものになってきていると読み取れるか。未定などの回答率が下がったか。 ②厚商チャレンジの取組状況は変化したか。また、実力テスト、定期テストの成績結果や検定等の合格率が上昇したか。	①進学、就職準備を含む進路未定の割合が昨年度 9.4%から 3.9%に減少した。 ②厚商チャレンジにおける実力診断テスト事前学習への取組状況が3年生においては英、国、数ともに昨年度比 50%増加となり、意識向上が見られた。	①最終学年における卒業時未内定（進学準備等除く）を極力0に近づけるようきめ細やかな進路指導が必要である。又、職業理解につながる多くの機会を生徒に提供し、インターンシップ参加数を増やしていくことが必要である。 ②継続的なマナトレ指導と診断テストの活用を行い、データを活用した学習指導、進路指導を行っていく。	①進路未定の割合が減少し厚商チャレンジの成果も現れているので、生徒の自信につながっていると考える。引き続き取組を強化するとよい。 ②来年度は進路指導・支援に特化した目標設定をお願いする。	①学年に対応した進路ガイダンスを定期的実施し、進路意識を高めることができた。 ②厚商チャレンジの取組について、基礎学力向上と就職、進学実績との相関関係については今後も追跡していく必要がある。	①引き続ききめ細かい進路ガイダンス、個別進路面談等を実施する。 ②厚商チャレンジのデータを進路指導に活用できるよう検討する。
4	地域等との協働	①地域等との協働・連携を通して、学校の教育力の向上を図るとともに、地域に根ざした学校づくりを推進する。 ②国際理解教育の充実を図り、国際的な視野を持った人材の育成を推進する。	①生徒会役員及びLHR委員を中心に「地域の中の学校」という観点で地域貢献活動を行う。また、地域協働部会の活動を充実させ、継続する事業を発展させるとともに、新しい協働について検討する。 ②国際交流プログラムへの参加者を増やし、新学習指導要領や新校を見据えた新しいプログラムへ取り組む。	①学校運営協議会等の意見を参考にするとともに、商業科の行事において生徒が主体的に取り組む行事を進め地域との連携の機会を増やす。 ②HPや校内掲示、紹介ビデオ等を活用し、参加者の感想などを発信し、興味や関心を引くPR活動を行うとともに、新たなプログラムを企画し実施する。	①地域の教育力を活用した教育的交流の場が増えたか。地域から好評であったか。また、生徒が企画段階から主体的な取組ができたか。活動の場を増やすことができたか。 ②参加者が増えたか。また、85%以上の参加者から次年度も参加したいという声が聞かれたか。	①緑ヶ丘地区回覧で厚商新聞を回覧することができた。また、地域清掃を生徒のアンケートからの提案で実施した。 ①チャレンジショップ委員会が新商品の開発や地域との連携、復興支援協力により令和元年度神奈川県立学校の児童・生徒表彰を受けた。 ①1年生の総合的な探究の時間で、厚木市青年会議所による進路学習を行った。 ②サマーキャンプへの参加者が4名と半減し、次年度も参加したいと全員回答した。	①回覧をもっと活用し校内の出来事を発信していく。また、LHR委員を中心に組織的・生徒主体で実施していく。 ①チャレンジショップ、リカレント講座、そろばん教室、課題研究発表会の公開など地域との連携を今後も図っていく。 ①生徒が企画段階から厚木青年会議所メンバーとの話し合いに参加し、主体的に取り組める工夫が必要である。 ②参加募集を工夫し、ビデオ等を活用してPRを進めるとともに全校への報告会などの実施を検討する。又、国際交流プログラム全般の見直しをする。	①厚木青年会議所（厚木JC）との取組について具体的な内容を伺いたい。 ①リカレント講座などの生徒が主体的に取り組む活動をさらに増やして発展させたい。 ②「東北商店街II」なども是非取上げてほしい。また他にも生徒が地域や他校と交流したイベントなども成果として評価していきたい。	①厚木JCや自治会やPTAとの連携・協働を進め、機会を増やすことはできた。 ①チャレンジショップ委員会では新商品の開発を行い、アミューあつぎの新ブースにて販売した。今後も地域と連携を図る。 ②チラシの配付などを行い、PR活動を行ったが、参加者が減った。 ②商店街では本校生徒が実行委員長を勤め参加生徒の貢献意識を高めることができた。	①外部との連携・協働の機会をさらに増やし、生徒の主体的な活動を深めるとともに、学校の教育力向上を図る。また、外部での活動をHP等で報告する。 ①チャレンジショップ委員会では新製品の開発を進めるとともに他の行事のPR活動をさらにすすめていく。 ②参加した生徒の「生の声」を発表する機会を設け、PR活動に活用する。 ②商業高校が中心となって行う持続可能な全県的な取組を実施していきたい。
5	学校管理 学校運営	①校内の施設設備の充実を図り、快適な学習環境を整備する。 ②事故・不祥事防止を図るとともに、学校評価システムを適切に行い、信頼される学校づくりを推進する。	①新校の準備に向けて校内の施設設備を点検し必要な備品、物品を整理し環境整備を行う。 ②事故・不祥事ゼロを継続するとともに、学校運営協議会の取組を発展させ本校らしい組織にする。また、地域との協働事業を充実させる。	①校内学習用備品・冷暖房備品・清掃用品・防災用品等を点検し、不要な物品を廃棄するとともに、新規購入を行う。 ②事故・不祥事防止に関する研修や啓発活動の方法を工夫するとともに、風通しの良い職場環境を整える。 ②学校運営協議会の開催時期や協議内容を工夫し、意見等を学校運営に生かす。	①校内の施設・設備の点検を行い、備品、物品の廃棄・購入が行い整理することができたか。 ②職員間の声掛けや対話する場面、協働して指導に取り組む姿が多くみられたか。事故・不祥事がゼロであったか。 ②学校運営協議会での意見を学校教育に生かすことができたという声が協議会委員及び職員から聞かれたか。	①校内の備品・冷暖房備品・清掃用具・防災用品他を点検し不要物品を廃棄した。損傷したPタイルの張り替えを2回行った。 ②事故・不祥事はゼロであったが、ヒヤリハットの状況が数件あった。 ②学校運営協議会の時間が十分に取れなかった。	①今後も安全面に配慮し校内の施設・設備の点検を行い、不要な物品を廃棄するとともに、必要な物品については可能な限り予算計上し、購入を進める。 ②風通しのよい職場環境を整え、ミスを事故にしない体制を維持する。 ②学校運営協議会の開催時期や方法について意見を頂き、よりよくしていく。	①統合の準備と共に生徒が生活しやすい学校、教員が働きやすい職場となるよう点検、整備を進めていただきたい。 ②今回の新型コロナウイルスへの対応でも生徒へのフォロー（学習面や精神面など）をお願いしたい。	①校内の施設・設備を点検し、物品の購入・廃棄を適切に行った。まだ不要物品が残っており来年度廃棄を進める。 ②事故防止研修会を充実させ重大な不祥事はなかった。新型コロナウイルス対応も職員が協力し最善の対策ができた。再登校後の指導に注意を払う必要がある。	①環境整備で新規の物品の購入・廃棄をするうえで職員の声をよく聞き予算立てをし無駄のないよう進めていく。 ②時間と気持ちに余裕の持てる職場環境を整え、事故・不祥事ゼロを継続する。